

### 第3国研修チュニジア同行指導記

2009年7月31日から8月8日までの9日間、シリア国節水灌漑農業普及計画フェーズ2の第3国研修として、シリア人 C/P 7名とともにチュニジアを訪問した。C/P は、農業農地改革省の研究部門である自然資源研究局から3名と、灌漑設備購入のためのローンや灌漑システムの設計などを行い、農家の灌漑近代化を担う灌漑近代化推進局から4名で、全員が灌漑システムについての専門家であった。今回の研修目的は、チュニジアの研究施設および普及所の見学と、農家グループによる灌漑システムの管理について情報を得ることであり、近代的な灌漑農業が行われているチュニジア中部の Nabeul, Kairouan, Monastir の3県にある地方農業開発事務所(CRDA)と共同井戸の管理を行っている農業開発組合(GDA)をそれぞれ訪問した。

研修初日には、灌漑近代化推進局の C/P が強く望んでいた、灌漑用のポリエチレンパイプや塩化ビニールパイプを生産している工場を見学した。彼らは、パイプに型番を印刷する工程に強い興味を示した。シリアの町工場などで生産されるパイプには、型番等が記されておらず、品質管理が行われていない。そのため、シリアの農家は、パイプの品質の良し悪しが判断できず、粗悪品を使っている場合が少なくない。このような農家は、灌漑機材全般に不信感を持っており、灌漑近代化にも消極的になりがちである。パイプの品質検査とともに適切な品質管理は、シリアにとって大きな課題であるように思われた。

2日目に中央の研究機関を見学した。3日目から3県を訪問し、各県の CRDA で県の農業事情について説明を受けた後、GDAを訪ねた。GDAは、農家グループによる灌漑システムを管理する組合である。参加している農家から水料金を徴収することで運営されている。GDA のコミッティーメンバーは2年間の任期で、参加農家の中から選挙により6名が選出され、井戸の設置やメンテナンス、水料金の徴収など水資源管理の責任を負っている。1つの井戸を設置するためには、最低でも15~16農家の参加が必要であるが、降雨の多い年になると参加する農家が減り、十分な予算が得られない問題が生ずるとのことであった。しかし、訪問した Kairouan 県だけでも300近くの GDA が活動しており、井戸の共同利用ということが、多くの農家に受け入れられているように思われた。また、全国すべての GDA ユニットを対象とした、組合活動のコンペティションが毎年開催され

ている。その優勝経験がある Monastir 県の Bekalta1 というユニットでは、灌漑システムの管理だけでなく、農家へ肥料や農薬、マルチの分配、使用済み容器やプラスチックの回収も行っており、洗練された組織運営がされていた。チュニジアでは共同井戸の利用により、低コストで灌漑を行うことができている。しかし、シリアの多くの農家は自分の土地に井戸を掘り、それぞれが自由に灌漑を行っている。このような状況が節水を達成するための大きな障害になっていると思われる。

今回訪問したチュニジアはシリアと同じアラビア語圏で、方言の違いこそあれ、通訳を介さずにコミュニケーションをとることができ、研修を行ううえで大きな利点であった。アラビア語を理解できない筆者だけが話題に取り残されていたが、C/P たちは方言の違いを楽しみながらチュニジア側と交流をしていた。通訳を介さない分、活発な議論も行われ、十分な意見交換が行われていたように思う。また、筆者にとっても、シリア人と9日間一緒に旅をするという経験は、シリア人を知る良い機会であった。彼らは、たとえ同じ文化圏の国へ行く時でも、砂糖から紅茶、ハーブティー、ホブズ(パン)にいたるまで何でも自国から持っていくという事を初めて知った。たった9日間ではあったが、一緒に旅行をすることで、C/P 同士の結束も高まったように思う。この経験を今後のプロジェクトにいかしていきたい。(中山)



GDAユニットで説明を受ける C/P 達



訪問した農園での集合写真